OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	災害時の保健所の役割
Author(s)	鵜飼, 卓
Citation	大阪公衆衛生. 1995, 67, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83777
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

回転扉

災害時の保健所の役割

大阪市立総合医療センター　救命救急センター
所長　鵜飼　卓

未曾有の大災害

阪神・淡路大震災は、世界有数の先進国の近代都市が、わずか20秒ほどの直下型地震で一瞬のうちにその機能を喪失したという点で未曾有の大災害であった。

サンフランシスコとロスアンジェルス近郊で生じたロマプリータ地震やノースリッジ地震も大きな損害をもたらしたとはいうものの、ダウンタウンの真ん中を襲ったわけではなく、その意味では今回の災害はメキシコ地震に近い。

メキシコでも災害後多くの若者がボランティア活動をしており目をひいたが、今回の日本の若者のボランティア活動も見るべきものがあった。

前時代的「医療防疫行動隊」

大阪市地域防災計画によると、災害時の医療助産計画として恐ろしく前時代的な「医療防疫行動隊」というものを設置することになっている。

そして今回の大災害に際しても「医療防疫行動隊」が組織され、神戸の被災者の救援医療のために派遣された。この「医療防疫行動隊」は、保健所長の指示のもとに傷病者の応急医療とトリアージ（ただし文中では病院又は診療所へ搬送するか否かの判定）を行うことになっている。

この地域防災計画は伊勢湾台風災害の後に雛形が作られ、その後はほとんど改定されていないのではないかと推測しているが、災害後の医療ニーズの刻々の変化という観点が欠如している。

たいへん失礼な言い草で、お叱りを受けるかも知れないが、保健所長の先生方は災害時に救急医療を効果的に行う上でどのような問題があるかをご存知なのだろうか？

今日の保健所活動は救急医療とあまりにもかけ離れてしまっている。日常の救急医療現場の問題点を把握していない方に災害時にだけ指揮を取れといっても、所詮無理なことではないかと思うのである。

プライマリーケア

災害直後の救命的な応急処置、トリアージ、それに医療資源の適正利用を考えた後送搬送という作業は、むしろ保健所の手の及ばぬ範囲であろう。

他方の、その後の避難所でのプライマリーケアを主体とする医療サービスのリーダーシップは、保健所管轄の重要な仕事といえるであろう。

現実には阪神大震災では災害対策本部とボランティアグループ、外部からの公的な医療チームの調整にやや問題があったようである。ボランティアの有効な活用は大規模災害には欠かすことのできない命題である。

環境衛生

災害後に保健所が管轄すべき重要な役割に環境衛生の保持がある。

伝染病の予防は確かに重要であるが、世界の近年の災害の歴史を振り返っても自然災害のあとに広範な伝染病の発生はほとんどない。

少なくとも臨床予防接種はほとんど無益である。そのエネルギーを清潔な水の供給、水質検査（これは今回行われたと聞いていない）、ゴミ処理、し尿対策に向けるべきである。

ことに水のでない場所での水洗便所の使用は耐え難いものであるから、もし簡易トイレの搬入が遅くなるならば、むしろ穴を掘って板を渡し、囲いをするという単純な臨時のトイレを作り、満杯になれば埋めて新しい穴を掘っていくというような古典的な方法がすすめられるのではないだろうか。

災害医療コーディネーター

筆者は災害医療コーディネーターの必要性を主張しているが、この役割を担う者と保健所とがうまく共働することができれば、日本の災害医療体制もよりよくなるのではないかと考えている。



山陽新幹線の軌道も落下

わずか20秒の直下型地震で近代都市は機能を喪失した



5階ビルの1階部分がなくなった